

平成24年度長期研修生 研究報告概要

鳥取県教育センター 教育相談課
長期研修生 八頭町立船岡中学校 田中みどり

1 研究テーマ

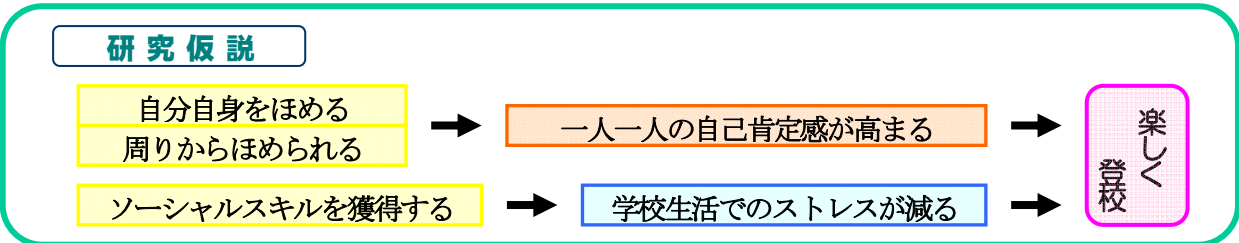
生徒たちがお互いを認め合い、自己肯定感を高くむ学級集団づくりの工夫

2 はじめに

所属校の課題の一つに「不登校」がある。鳥取県中学校不登校生徒の出現率も近年全国平均を上回っている状態である。不登校生徒への支援を行っていくことはもちろんだが、新たに不登校生徒を生まない、早期発見の前段階での未然防止の視点で有効な手立てはないだろうか日々模索している。

3 研究目的

不登校を未然に防ぐひとつのポイントとして多くの時間を過ごす『学級』での人間関係を良好にすることが重要であると考え。一人一人が大切にされだれもが必要とされていると感じることができ、ルールやマナーが守られている学級集団をつくることができれば、安心して楽しい学校生活をおくることができるようになるのではないかと考え検証していく。



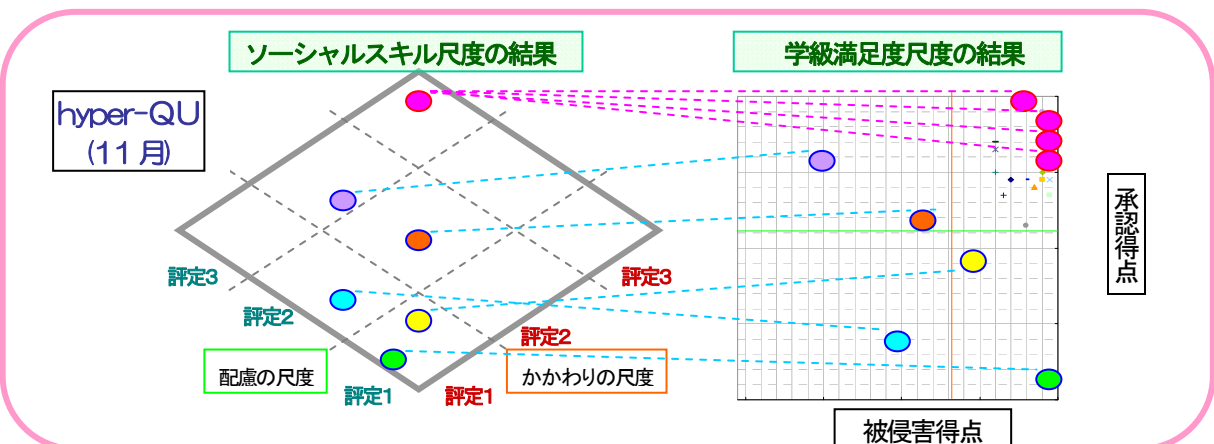
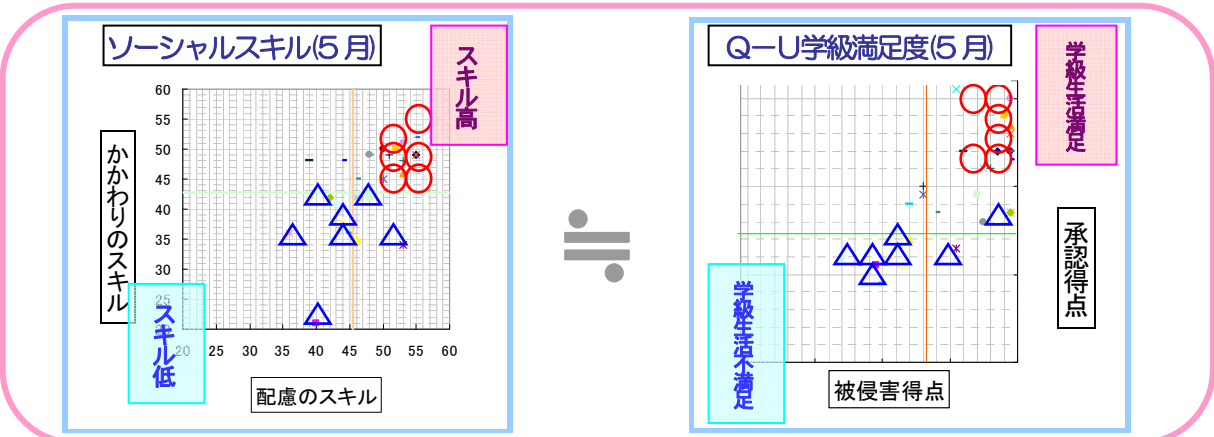
4 研究内容

(1) 生徒の実態把握

- ① 教職員アンケート
- ② ソーシャルスキル尺度をはかるアンケート
- ③ Q-U (5月)、hyper-QU (11月)
- ④ 自己肯定感測定アンケート

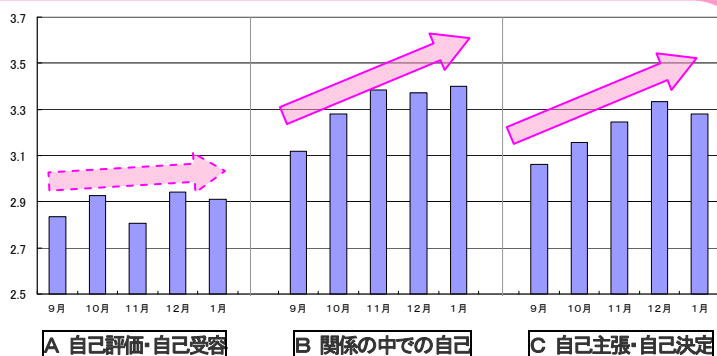
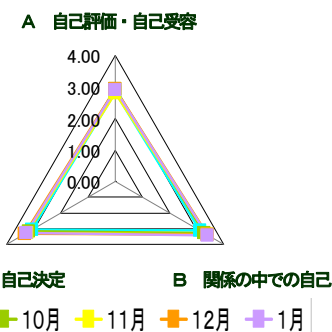
(2) 各種アンケートの分析

- ① 「教職員が感じる生徒の課題となるスキル」と「ソーシャルスキル尺度をはかるアンケート」の結果に整合性があること、「ソーシャルスキルが身についている」ことと「学級生活満足度」の間に相関関係があることがわかった。



- ② 月1回の自己肯定感測定アンケートから生徒の傾向を把握し、個別の関わりを短期で見直すことができた。また、継続して実施することで、個別指導や保護者懇談において教師の主観だけでなく客観的なデータも利用しながら話ができ、充実した時間を持つことができた。

第1学年
自己肯定感
アンケート
(9月～)



(3) 授業実践等 (第1学年 2学級)

① ソーシャルスキル獲得の学習

- ・学級活動『話し合いのバランス感覚を鍛えよう』(7月)
【目標】適切な声の大きさ・発言の量で話し合い活動ができる。
- ・学級活動『共同絵画』(1月)
【目標】ルールを守り、相手を思いやって活動できる

② 自己肯定感をはぐくみ、満足感を高める取組

- ・終学活『ほめ日記』(6月～)
【目標】学級における承認感・自己有用感・自己肯定感をはぐくむ。
- ・学級活動『他者紹介』(6月)
【目標】自分の良いところや級友の良いところを改めて知り紹介できる。

③ 生徒が主体となり自治的な活動ができる集団へ高める取組

- ・学級活動『学級会』(10月)
【目標】学級生活が改善・向上できるような方法を考え、各自実践していくことができる。

④ 個々への継続的なかわり

5 研究のまとめ

(1) 生徒の実態把握について

「教師の見取り」「ソーシャルスキル尺度をはかるアンケート」「hyper-QU」「自己肯定感測定アンケート」など複数の結果からアセスメントを行い、を多面的にとらえながら関わることで不登校未然防止の効果があると思われる。

(2) 授業実践等について

- ① 自分をほめたり、周りからほめられたりする経験が増えることが、意欲的に学校生活を送る大きな要素になる。
- ② つけたい資質や能力を明確にして特別活動を行い、個々のよさを積極的に評価することで、生徒が意欲的に学校生活を送るきっかけになる。

6 今後の課題

- ・各種アンケート後の情報交換会等の工夫
- ・1年間および3年間を見通したソーシャルスキルトレーニングの積み上げ、指導実践集の作成
- ・生徒の「自己評価・自己受容」を高める工夫

7 おわりに

教師が「ほめる」「認める」こと、生徒同士が「ほめ合える」「認め合える」ことができることで、あたたかい学級集団へとつながっていくことを実感した。ほんの数秒の声かけ、ほんの数行のコメント記入が、生徒が意欲的に学校生活を送る一つの手立てになる。日々の観察と客観的なアンケートを組み合わせることで生徒を見取り、生徒に寄り添った指導・支援を心がけていきたい。

学級活動『共同絵画』



友達のいいところを
ほめるって楽しい!

学級生活不満足群にいた生徒の変容

